

令和4年度第1回水戸地域医療構想調整会議 議事録

1. 日時 令和4年6月28日(火)18時30分から20時50分まで
2. 場所 茨城県健康プラザ 3階 大会議室
3. 出席者 別添「出席者名簿」のとおり

4. 議事

(1)出席者の紹介

別添「出席者名簿」のとおり出席し、令和4年度人事異動等により4名の委員が就任したことを報告した。また、委員以外に、管内市町、県関係機関等が出席していることを報告した。

(2)副会長の選任

会議設置要綱第5条により、吉見委員を副会長に選任し、異議なく承認された。

(3)議長の選任

会議設置要綱第7条により、原会長が議長に就いた。

(4)議事録署名人の指名

議長は、会議設置要綱第10条により、会議録署名人に奥田委員及び木城委員を指名した。

(5)会議の公開

議長は、会議設置要綱第9条により公開することについて意見を求めたところ、異議なく承認された。

(6)議事

議長は、事務局に次の事項の説明を求め、事務局は会議資料に基づき説明を行い、質疑応答及び意見交換(別紙参照)が行われた。

●協議事項

ア 地域医療構想の推進について

I. 病床機能報告の内容に関する再検討結果について

- ・再検討で病床機能を見直した医療機関委員(島居委員、生澤委員)からの補足説明を求め、質疑なく原案のとおり承認された。

II. 過去1年間に病床が全て稼働していない病棟の今後の運用計画について

- ・該当病棟を持つ医療機関委員(生澤委員、佐藤委員)からの補足説明を求め、質疑なく原案のとおり承認された。

III.各医療機関の役割を踏まえた「具体的対応方針」の検討について

・医療機関の拠点化・集約化に向けた今後の方向性について、質疑応答及び意見交換が行われ、引き続き、ワーキンググループの設置等により、協議を進めていくことが了解された。

イ 令和4年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査について

・医師派遣要望を提出している 11 医療機関に、要望理由について説明を求めた。医師派遣要望のとりまとめについては、会長一任が了解された。

●報告事項

ア 県立あすなろの郷病院建替えについて

以上をもって、全ての協議が終了したので、議長は閉会の宣言をした。

上記を確認するため、議事録を作成し、議事録署名人が署名する。

令和4年7月26日

水戸地域医療構想調整会議会長

議事署名人

待、毅
末城 洋

議事署名人

奥田 猛

令和4年度第1回水戸地域医療構想調整会議 質疑応答・意見要旨

日時: 令和4年6月28日(火)18:30~20:50

場所: 茨城県健康プラザ 3階 大会議室

●協議事項

ア 地域医療構想の推進について

I. 病床機能報告の内容に関する再検討結果について

II. 過去1年間に病床が全て稼働していない病棟の今後の運用計画について

III. 各医療機関の役割を踏まえた「具体的対応方針」の検討について

高橋委員

施設の統廃合や集約については、施設の老朽化等のタイミングがあったので、議論を重ねてきたところである。公的医療病院ではなく、ほかの病院も交えて集約化を図るという認識でよいか。

吉見副会長

病院の集約も念頭に置いて議論するのか、今の公的7病院（水戸赤十字病院、水戸協同病院、水戸済生会総合病院、水戸医療センター、県立中央病院、水府病院、茨城県立こども病院）のまま機能の集約をしていくのか、忌憚のないご意見をいただきたい。本医療圏の広さを考慮し、複数のフラッグシップホスピタルがあると、住民にとっては今よりも安心した医療が受けられるのではないかと考えている。

土田委員

医療機能の拠点化・集約化に向けた今後の方向性の検討の対象ががんや脳卒中等であり、感染症がない。コロナウイルス感染症のパンデミック踏まえ、今後感染症を含めて検討していくのか。

吉見副会長

感染症に対応するためには、総合医療の能力が必要であり、病院の集約化が望ましいと考えている。

土田委員

複数の総合病院が感染症に対応するという認識でよいか。

吉見副会長

そのように考えている。

平澤委員

集約化について、集約されない診療科の医師はメインの診療科支援に回ることになる。集約については相当の覚悟が必要である。

生澤委員

医師が不足している現状であるため、医師を派遣してもらえれば3次救急の機能が強化される。集約化も含めて統廃合について検討しているところであるが、地域に求められる病院になるためには、さらに大きくなる必要があると感じている。

佐藤委員

病院の統廃合は、避けられないと考えている。感染症に対応するためには、施設整備が必要であり、病院の統合について考えなければならない。また、コロナウイルス感染症により受診控えが起こっているが、これが真の医療需要であると考えている。これらを含めると現状のように病院が乱立するよりも、病院自体の集約が必要ではないか。院内感染等を考慮して、ひとつの病院ではなく、複数の基幹病院を備えておくことが求められるべき姿ではないか。

高橋委員

これまでの地域医療構想会議では、病院が経営面や医療資源不足で困難に直面するという意見がある一方、楽観視している意見があった。実情が分からない中、行政としての準備ができない状況であるが、ある程度答えが導き出されれば、行政としての支援や責任が見えてくる。今後は、誰かが答えを示し、その元に検討を進めることが必要であり、行政の責任として主体的に関わりたいと考えている。誰が何をするかということを明確にした上での検討が必要である。

會澤委員

水戸医療圏の5病院は、統合の希望がなければ、このまま継続し、他の病院がそれぞれの特性を生かした形で5病院の支援をするという体制がよいのではないか。信頼のおける医療をどうすれば提供できるかを5病院で議論する必要がある。

吉見副会長

県民へ安心安全な医療提供をするためには、病院の編成統合を踏まえた検討が必要である。今後、忌憚のない話合いができる場を設ける予定である。

田宮委員

集約化においては、医療レセプト及び介護のレセプトとの連結データが有用である。データ分析において、小児については集約化した方がいいという結論が出る等、データからある程度の結論を導くことは可能である。再編統合や集約化においては、データを踏まえた分析が必要である。

渡辺委員

統合再編について、財政的な基盤が見えれば議論が進むが、それが明確でなく現実味がない。水戸の各病院とも、現状に合わせた最もいい病院になろうと現実に即した形が作られ、現状がある。当院が統合して姿を変えれば、かなりの混乱が生じる危惧がある。また、当院の地域医療教育センターは国内トップレベルの教育体制であり、堅持したい。この体制は、当院がコンパクトな規模だからこそ可能であり、必ずしも統合が最良であるとは限らない面もある。

島居委員

今後、再編統合が優位な方向になっていく、または地域に必要な形で役立つのであれば、統合も辞さない考えである。課題として、立地条件のほか、5病院（水戸赤十字病院、水戸協同病院、水戸済生会総合病院、水戸医療センター、県立中央病院）すべてが異なる経営母体のため、統合においては名称も含めて議論が必要である。5つの病院だけで、統合という結論を出すのではなく、中小の病院も含めて統合を改めて考え、ハード面、ソフト面の双方から地域に必要な医療の検討が必要である。

イ 令和4年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査について

●報告事項

ア 県立あすなろの郷病院建替えについて

以上。

水戸地域医療構想調整会議出席者名簿（委員）

区 分		氏 名	役 職	摘要
医療関係団体	医師会	原 毅	水戸市医師会長	
		石 塚 恒 夫	笠間市医師会長	
		會 澤 治	県央医師会長	
	歯科医師会	田 澤 重 伸	水戸市歯科医師会長	オンライン参加
	薬剤師会	奥 田 猛	水戸薬剤師会長	
	看護協会	中 島 貞 子	茨城県看護協会専務理事	
	病院協会	諸 岡 信 裕	茨城県病院協会会長	
保険者		木 城 洋	全国健康保険協会茨城支部長	
福祉関係団体		保 立 武 憲	水戸市社会福祉協議会長	
介護事業者		木 村 都 央	茨城県老人福祉施設協議会理事	
住民代表		山 下 恵 子	中央保健所・水戸市保健所管内食生活改善推進協議会長	
市町村		高 橋 靖	水戸市長	
		國 井 豊	大洗町長	欠席
保健所		吉 見 富 洋	中央保健所長	
		土 井 幹 雄	水戸市保健所長	
基幹病院等		生 澤 義 輔	水戸済生会総合病院長	医師派遣要望
		米 野 琢 哉	国立病院機構水戸医療センター院長	
		佐 藤 宏 喜	水戸赤十字病院長	医師派遣要望
		渡 辺 重 行	総合病院水戸協同病院院長	医師派遣要望
		島 居 徹	茨城県立中央病院長	医師派遣要望
		平 澤 直 之	北水会記念病院長	
		家 田 俊 也	大洗海岸病院長	医師派遣要望 オンライン参加
		土 田 博 光	水戸病院長	医師派遣要望
		丹 野 英	丹野病院長	
		伊 藤 道 子	志村病院理事長	オンライン参加
		大 場 正 二	大場内科クリニック院長	オンライン参加
学識 経験者	消防	大 内 康 弘	水戸市消防局消防局長	
	大学	田 宮 菜 奈 子	筑波大学教授	オンライン参加

水戸地域医療構想調整会議出席者名簿（医師派遣要望説明医療機関）

医療機関名	氏名	役職	摘要
国家公務員共済組合連合会水府病院	田 枝 督 教	院長	オンライン参加
	浅 海 正	事務部長	
水戸中央病院	大 河 内 信 弘	院長	オンライン参加
茨城県立こども病院	新 井 順 一	病院長	オンライン参加
石岡循環器科脳神経外科病院	大 島 幸 亮	副院長	オンライン参加

水戸地域医療構想調整会議出席者名簿（医療機関、市町村、県等）

区分	所属	氏名	役職	摘要
医師会	茨城県医師会	宇 佐 美 宏 之	調整課長	オンライン参加
保険者	全国健康保険協会茨城支部	石 井 良 知	企画総務グループ長	
医療機関	水戸済生会総合病院	鈴 木 圭 子	事務部長	
	水戸赤十字病院	野 口 明 彦	企画課長	
		深 谷 将 之	企画課秘書広報室長	
	総合病院水戸協同病院	飯 島 幸 広	事務部長	
茨城県立中央病院	渡 辺 敦 史	企画情報室長		
市町村	水戸市	大 曾 根 明 子	保健医療部長	
		三 宅 陽 子	保健総務課長	
		住 谷 剛	保健総務課地域医療対策室長	
		長 洲 翔 太	保健総務課地域医療対策室主事	
	笠間市	栗 原 政 人	消防局救急課長	
県	医療政策課	山 本 哲 也	健康医療政策課長	オンライン参加
		笹 口 満	医療計画グループ課長補佐	
	医療人材課	吉 村 徳 博	医療計画グループ係長	
		小 島 寛	茨城県地域医療支援センター長	
		小 野 幸 子	課長	
		沼 尻 匡 広	医師確保グループ課長補佐	
		佐 藤 和 也	医師確保グループ主査	
	ひたちなか保健所	榑 原 み ゆ き	総務課地域保健推進室長	
		榑 戸 祐 太	総務課地域保健推進室主事	
	障害福祉課	渡 邊 輝 夫	副参事	
		梶 山 秀 樹	企画グループ係長	
	病院局	軸 屋 智 昭	病院事業管理者	
		本 澤 冴 子	経営管理課企画室長補佐	
	事務局	中央保健所	生 源 寺 貴 之	副参事兼次長兼総務課長
石 川 尚 美			地域保健調整監兼保健指導課長	
関 律 子			総務課地域保健推進室長	
富 田 和 則			総務課地域保健推進室副主査	
佐 藤 佑 香			総務課地域保健推進室主任	
菱 沼 隼 人			総務課地域保健推進室技師	